

JIA talk

JIA 中国支部建築家大会 in 出雲

2025

～持続可能な地球をデザインせよ！～
建築と都市の未来

2026/ 2 /21/sat



公益社団法人 日本建築家協会中国支部

後援：島根県、出雲市、松江市、（一社）島根県建築士会、（一社）島根県建築士事務所協会

建 築・都市研究家、建築批評家として活躍されている島根出身の布野修司先生に著作『持続可能な地球をデザインせよ！ 建築と都市の未来』を中心に1部としてご講演いただきます。“本書で問うのは、地球環境の限界を前提とした上で、住居、建築、近隣住区、地域社会、都市空間、国土、そして世界全体の空間デザインのあり方である。焦点を当てるのは1980年代末から現在に至る1990年代以降の建築のあり方、建築家の役割、その作品（実践）そして建築生産体制である。”（序章より）と興味深い内容です。2部は会場である「ビッグハート出雲」が開館して四半世紀が過ぎた事を踏まえ「ビッグハート出雲」についてのトークセッション。パネラーは当時のコンペの審査委員長であった布野修司氏、シーラカンスで小島さんと一緒に設計・監理と関わり独立後もメンテ等に関わられていた加藤峰雄氏、コンペ当時の行政側の直接の担当者の伊藤幹郎氏、行政として文化施設の管理に関わられている飯塚潔氏、コーディネーターは島根・出雲に拠点を置き活躍されている建築家の亀谷清氏。当時のコンペの状況から設計当初の意図、完成後の使われ方を通じて地域の公共施設、文化施設の状況や課題についてそれぞれの立場・視点から話を伺います。

シンポジウム CPD3 単位申請中 定員 100 名

13:00-13:50 シンポジウム開会

14:00-15:30 講演『持続可能な地球をデザインせよ！ 建築と都市の未来』
建築・都市研究家、建築批評家 布野 修司

15:30-17:00 トークセッション（仮称）「公共の文化施設について」
ビッグハート出雲のコンペから今日の運営まで
建築・都市研究家、建築批評家 布野 修司
有限会社ツナミデザイン 加藤峰雄
元出雲市教育次長 伊藤幹朗

17:00-17:15 質疑応答
出雲市市民文化部文化スポーツ課 飯塚潔
進行役：ナック建築事務所 亀谷清

17:20 閉会

18:00-20:00 懇親会

布野修司 Funo Shuji

建築・都市研究家、建築批評家

1949年 島根県生まれ

1972年 東京大学工学部建築学科卒業

1976年 東京大学工学部助手

1978年 東洋大学工学部講師、助教授

1991年 京都大学工学部建築学科助教授

2005年 滋賀県立大学環境科学部教授、副学長、理事

2015年 日本大学建築工学科特任教授、客員教授

加藤峰雄 Kato Mineo

建築家・有限会社ツナミデザイン 主宰

1961年 愛知県生まれ

1984年 福井大学建築学科卒業

1990年 東京都立大学大学院修了

1990-2000年 シーラカンス

2001年 ツナミデザイン設立

伊藤幹郎 Itoh Mikiro

元出雲市教育次長

ビッグハート出雲のコンペ時の行政担当者

飯塚 潔 Iituka Kiyoshi

出雲市市民文化部文化スポーツ課 課長補佐

亀谷 清 Kametani Kiyoshi

建築家・有限会社ナック建築事務所

■シンポジウム会場

ビッグハート出雲 「茶のスタジオ」

島根県出雲市駅南町1丁目5番地

Tel.0853-20-2888

■懇親会会場

ホテル武志山荘 会費 7,000円

島根県出雲市今市町 2041

Tel.0853-21-1111

■申し込み方法

一般入場無料 下記QRコードよりお申込みください。

※お申込み頂いた個人情報は第三者に提供及び開示致しません。

建築家大会への登録料 5,000円（JIA 会員、協力会員のみ対象）

登録締め切り 2月16日 当日支払い又は事前振込

振込先：ゆうちょ銀行 記号 15190 番号 19412321

口座名 公益社団法人 日本建築家協会中国支部

※他金融機関からの振込は下記の内容をご指定下さい。

店名 五一八（ゴイチハチ）店番 518 普通預金口座番号 1941232

■エクスカーション 2月22日（日）10:00～ 参加費 5,000円（予定）

・出雲大社でのお祓いを拜殿で行い、その後本殿の八橋門を入りお話を聞く

・特別な見学として伊藤忠太氏の関わった建物の見学、新大社庁舎の見学など予定

■お問い合わせ

公益社団法人 日本建築家協会中国支部

広島県広島市中区八丁堀 5-23 オガワビル

TEL.082-222-8810 FAX.082-222-8755

E-mail: chugk@jia.or.jp

URL:https://jia-chugk.jp/

お申し込みは
こちらから



建築に未来はあるのだろうか？

“本書で問うのは、地球環境の限界を前提とした上で、住居、建築、近隣住区、地域社会、都市空間、国土、そして世界全体の空間デザインのあり方である。焦点を当てるのは 1980 年代末から現在に至る 1990 年代以降の建築のあり方、建築家の役割、その作品（実践）そして建築生産体制である。”（序章より）

20 世紀後半以降の世界中の建築と都市計画の展開、名だたる建築家たちの業績を鋭く跡づけ、建築の明るく豊かな未来の在り処を展望する。

半世紀にわたり世界を駆け巡ってきた著者にしか書きえない、博覧強記の現代建築批評！

【 著 者 略 歴 】
布野修司 〈ふの・しゅうじ〉
日本建築学会終身会員。滋賀県立大学名誉教授。1949 年、松江市生まれ。工学博士（東京大学）。建築計画学、地域生活空間計画学専攻。東京大学工学研究科博士課程中途退学。東京大学助手、東洋大学講師・助教授、京都大学助教授、滋賀県立大学教授、副学長・理事、日本大学特任教授・客員教授。「インドネシアにおける居住環境の変容とその整備手法に関する研究」で日本建築学会賞受賞（1991 年）、『近代世界システムと植民都市』（編著、京都大学学術出版会、2005 年）で日本都市計画学会賞論文賞受賞（2006 年）、『韓国近代都市景観の形成』（共著、京都大学学術出版会、2010 年）と『グリッド都市：スペイン植民都市の起源、形成、変容、転生』（共著、京都大学学術出版会、2013 年）で日本建築学会著作賞受賞（2013 年、2015 年）。「アジアの視座からの世界住居・都市研究の飛躍的発展ならびにタウン・アーキテクトの研究・実装に関する多大な貢献」で日本建築学会大賞受賞（2025 年）。



世界のCO₂排出量の37%は建築関係!!
超高層建築は地球環境危機下の「バベルの塔」か
木片を貼るだけ、樹木で覆うだけの
エコ建築はフェイクだ

2025年

日本建築学会
大賞!! 受賞後初著作

柏書房

人類は数万年をかけて、地上のあらゆる場所を居住可能な空間につくり変えてきた。その歴史の圧倒的
大部分、産業革命以前の建築は、地域で産出される
自然材料を使って地域の気候風土に即して建てられ、
やがて朽ち果てて自然に帰っていった。建築は、地
球の生命サイクルの一部だったのだ。

ところが、鉄とガラスとコンクリートによる近代建
築は、超高層ビルを生み出し、世界中の都市の景観
を塗り替えてしまった。

今や世界の総人口は 80 億を超え、温暖化をはじめと
する地球環境の限界（プラネタリー・バウンダリー）
が人類のあらゆる営みに影を落としている。中でも、
世界の CO2 排出量の 37% は建築的営為によるものと
される。

出雲地方は日本の神話の発祥の地であり、「ARCITECTURE WITHOUT ARCITECT」に取り上げられた築地松の防風林が点在する散村の風景でも有名なところである。ここにも現代化の波は押し寄せている。この建築はそうした街の新しい駅周辺の整備にあわせて駅前広場とともに計画された。劇場・ギャラリー・スタジオ・レストランなどの主に市民が利用する文化活動のための複合施設である。建築そのものではなく市民のアクティビティの気配がこの場所をつくると考えた。建築はアクティビティを増幅してみせる万華鏡である。

広場から続く1階の床面はハイポイントで周囲より1.7m高い緩やかなマウンドになっている。これは、フラットな地形に変化を与えると同時に、ガラス貼りの建築を寂しく見せない仕掛けでもある。各機能をガラス貼りのウイングに対応させて、その間に庭を挟み込んだラジエータ型の配置をとる。雑木林か公園の中でコンサートを楽しみアートに触れるような空間ができることを目指している。

ガラス貼りの劇場はホワイエ・ホール一体型で舞台上に可動客席を持つ前例のない可変型劇場である。道路からでも施設内の活動が伺える。建築を街路の延長として考えている。大きなガラス面は、コンピュータ制御されて気象（マイクロクライメイト）に応答し2000枚以上のガラスがばらばらに呼吸するように動くエアタイトなダブルガラスルーバー窓でできている。外部気象条件がよいときにはこの窓が全開し、内部と外部が公園の空気で満たされる。この窓は、夏に高温多湿で冬は冷えるこの地方にあわせて、高气密高断熱だけではない方法で柔らかく環境と共存することを目指して開発した。

C+A ホームページより

